
コードギアス 非道なルルージュ

浦波

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コードギアス 非道なルルーシュ

【Nコード】

N1415P

【作者名】

浦波

【あらすじ】

前作「恋姫？むしろ三国志」の主人公北郷一刀がルルーシュに憑依するお話です。

非道なルルーシュが暗躍する原作崩壊な物語

いち（前書き）

この話は前作の続編です。

出来れば前作を読んでからお願いします。 そうしたほうが分かりやすいです。

この話はお試しなので感想などによって更新します。

いち

ルルーシュになりました。

いや、いきなり何言っただコイツとか思わないでマジで俺も混乱してるから。

とりあえず自己紹介。

名前はルルーシュ・ヴィ・ブリタニアです。

現在二歳でまだロクに喋れません。

ちなみに中身は北郷一刀です。

あ、今恋姫無双の北郷一刀を思い浮かべただろ？

違う違う。同姓同名の別人だから。

でも恋姫の世界は体験済みです。

その詳しい説明は前作の「恋姫？むしろ三国志」を見てください。

さて、現実を見るんだ。

漂流は経験したが転生は初めだ。

まあ、漂流だけで普通はすごいんだけどね。

とりあえずルルーシュの記憶をチェックだ。

まあ、二歳のガキの記憶何てたかが知れてるけどね。

うお！すげえ！

ルルーシュって、こんな歳から理論的思考出来たのか。記憶がちゃんと説明できて分類もされている。

流石主人公。とんでもない能力だな。

まあ、これでよく分かった。

ここはアリエス離宮でまだナナリーは産まれてない。
出来るなら流産して欲しいなあ。

俺ナナリー嫌いなんだよな。

アイツマジ偽善者。

フレイア撃った癖にルルーシュに正義語るし。意味分かんねえ。

出来るなら今のうちに事故に見せかけて殺したい。

でも今は無理か。

ルルーシュの頭脳が言ってる。

アリエス離宮は警備もしっかりしているからそこら中に監視が付いている。事故に偽装するのは難しい。と告げた。

ルルーシュさんマジパネエッス

二歳の頭脳で確率なんて考えられるとはマジ人間とは思えねえ。

まあいい、今は無理でもいずれ殺す。

次に、前の俺の能力が健在か試そう。

監視の位置を確かめて死角で芝生をコピーした。

結論、出来た！

よし、これでルルーシュの頭脳と俺のコピーでほぼ最強だ。

先ずはこれでいい。

今は普通に子供やってればいい。

マリアン又は嫌いだけど今はじゃれついてやろう。

ふふふ…、ルルーシュの頭脳と俺の恋姫時代の経験をナメンだよ。
精神年齢は俺の方が遥かに上なんだからな小娘。

に（前書き）

2話目を書き上げました。

やっぱりコードギアスだと設定上話が難しいですね。

に

ナナリー産まりました（泣）

やっぱり産まれたか……。

そう簡単に物語は変わらないか。

現に俺は健全に？ 皇子やってるもんなあ。

俺の経験とルルーシュの頭脳と演技力で今のところバレて無い。

ルルーシュはイレギュラーに弱かったが、俺は経験でイレギュラーは起こり得るものと分かっているから驚いても直ぐに冷静になれる。というか表情に出さない。

基本演技で笑ったり泣いたり怒ったりしてます。

そうそう、ユーフェミアに会った。

コイツも嫌いなキャラだ。

平和を求める癖に表面しか見ない。

欲しいものを手に入れたがるガキと一緒にだ。

ま、今はホントのガキだな。

何が楽しいのかおままごとをせがんできます。キラキラした目で頼んで来ても俺にはウザいと思えない。

面倒だがルルーシュのキャラ的に断るのもおかしいので笑顔で参加します。

コーネリアにも合った。

既に大きいはまだガキの範疇だ。

ちなみに、コイツはそんなに嫌いじゃなかった。

ちよつと兄弟情に熱すぎるが、ちゃんと現実を分かっていたし、清濁合わせ持っていた。
でも敵になるのでいずれ殺す。
今は兄弟を演じて取り入る。もしかしたら何かの役に立つかも知れないので。

ナナリーの赤ん坊姿を見ました。

普通、赤ん坊はシワくちゃでどんな人種でもサルに見えるのに全くシワが見えません。

どんな身体構造してんだ？

これもアニメの補正か？

この世界の住人はみんながこうなのか？

疑問が尽きない。

この体マジ使えねえ。

まだ3歳だから鍛えればそこそ行くだろうが、現時点でユーフェミアに負けているのが屈辱だ。

いや、この年代は女子の方が成長早いからこんなもんか？

どっちにしろ原作では高校生になっても女子に負けてたので鍛える必要アリだ。

さん

マジ勘弁して欲しい。

マリアンヌが死ぬまでのこの生活。

確かルルーシュが8歳か9歳まで続くんだよなあ。

マジ疲れる。

一日中ナナリーの面倒見るか、たまに来るユーフェミアのおままごと
とに付き合い。

クロヴィスのチェスに付き合い。

たまの休みには帝王学の授業。

心からの休みがありません。

常に演技状態だから顔が強張りそうだ。

しかし、今はこの生活を続けなくては。

変な疑いをかけられれば面倒だし。

何よりこの体では抵抗しても直ぐに捕まって終わりだ。

現在五歳だが、一応筋力や走力を上げるためにトレーニングに励んでる。

しかし五歳なのであまり成果が上がらない。

それどころかマリアンヌが

「私が鍛えてあげるわ」

なんて言いやがったおかげで軍隊みたいなしごきになった。

自分で鍛えるメニューを基準に考えやがって。

てめえらみたいな身体能力は現実世界では有り得ないんだよ。

何で弾丸を避けれるんだよ。

というか俺にそんな水準を求めるな。

俺の身体能力は父親譲りでお前の遺伝子は外見だけ何だよ。

ナナリーは反対らしくて、身体能力が3歳の癖に高すぎる。アイツの足が使えなくなつて良かった。

じゃなきゃいずれ妹に身体能力で負けるなんて耐えられ無い。

シュナイゼルにも会つたがマジで人間とは思えない。

今までの俺の経験においてもあんなタイプは初めてだ。

しかし考えが読めないが予想は出来る。結果だけを求める考え方は俺に似ている。

手段も拘らないやり方は俺ソックリだからな。

しかし、シュナイゼルの悲しい所は特殊な能力が無いことだ。

この世界では非常識な能力が普通にまかり通る。

シュナイゼルは優れた政務能力と考え方を持っているが、悲しいことに普通の人間だ。

もしもルルーシュの絶対遵守のギアスを持っていれば原作でルルーシュに負けることはなかっただろう。

俺は将来を見越してマリアンヌにねだつて、ガニメデを見せて貰った。

まだ完成してないけど基本は完成しているので問題ない。

それとサクラダイトの単体を見せて貰ったのでコレでサクラダイトには困らない。いずれは機体開発をするのだから今のうちに消耗品を見ておこう。

他にも戦車や戦闘機、戦闘艦、ポートマン、グラスゴーなどを見せて貰った。

子供だからか、みんな深く考えずに見せてくれる。

それに、一応皇子でもあるので多少は特権も持っている。それでゴリ押しも出来る。

他にも銃などの携行兵器や爆弾など、マリアンヌの息子だと言うことで快く見せて貰えたら。

流石に撃つのは許されなかった。

後はコンピュータ分野に興味があると言って、最新のパソコンや研究所のスパコンなどをコピーした。

ルルーシュの頭脳は凄まじく、この頃からパソコンをいじっていたらハッキング技術が上がった。

医療も見てみたいと思い、見学だと言って病院を見て回った。

抗生物質や手術器具、手術室も見せて貰ったので、俺に医療技術は無いが技術を持つ奴に任せよう。

このように、多感な子供を装って様々な分野を見て回った。

関係者達も皇子である俺に覚えを良くしてもらうために頼んでも無いのに色々見せてくれた。

これで大体の準備が整った。

後はマリアンヌが死ぬのを待つだけだ。

しかしアイツ、アーニヤの中で生き延びるんだよなあ。

アーニヤもナイトオブブラウンスになるから邪魔何だよなあ。

今の内に殺しとくか？

よん（前書き）

今回特にご都合主義満載です。

これおかしくね？という部分もありますが寛容な心でお願いします。

後書きに読者様に質問があります。

出来ればお答えください。

よん

遂にマリアン又死にましたww

よくやった叔父上。

出来ればナナリーも一緒に殺してくれたらなお良かったのに。
まあ、そこまで高望みはしないさ。

さて、やっと原作だ。
とりあえずその前に。

今、俺は初任務を失敗して絶望しているジェレミア・ゴットバルトの前にいる。

俺が目の前にいるのに気付かないのか下を向いたままだ。

「ジェレミア・ゴットバルト」

俺はとりあえず呼ぶ。

ジェレミアは顔を上げて驚いた。

「で、殿下！？ も、申し訳ありませんでした気付かずに！」

ジェレミアは素早く立ち上がり頭を下げる。

「よい、こんな時だからな」

慰めとく

ジェレミアはまた頭を下げる。

「申し訳ありませんでした殿下！ 警備をしていながら賊の侵入を許すなど……！」

泣きながら頭を下げるジェレミア。

「いや、ジェレミア、もう終わったことだ。それに、私はこれが賊の仕業とは思えない。」

俺は疑っているように言う。

それにジェレミアは

「賊ではないと……？でしたら誰が？」
と聞いてきた。

その疑問に俺は

「よく考えてみる。ジェレミア。あの閃光とまで言われた母上が賊の襲撃如きであっさり死ぬと思えるか？」
と答える。

ジェレミアも

「……た、確かに。不自然ですね。」

疑問が湧いた。

「それにアリエス離宮は簡単に出入り出来ない。実際に住んでいた私が言うのだ。間違い無い。」

さらに、母上の死体を見たが争った様子が無い。普通、賊にあったら抵抗ぐらいするはず。」

俺がそう言うとならジェレミアは分かったようである。

「ま、まさかこれは……。」

そこに俺が

「そうだ。これは内部、もしくは近しいものの犯行だ。多分一人」
答えた。

「何故一人だと？」

ジェレミアが聞いてくる

「もし、何人かいたならこれだけの警備体制だ。一人位は捕まってる。」

そう答える。

ジェレミアは理解出来たらしく怒りに震える。

「誰がこんなことを……。」

俺の前だからか大声は上げないが必死に抑えている様子が分かる。

そこで俺は

「ジェレミア・ゴットバルトよ。貴様はまだ皇族に対する忠誠は持っているか？」

と聞いてみた。

ジェレミアは即座に

「イエス、ユアハインス！勿論、私の皇族に対する忠誠は揺らいでおりません！」

立ち上がり敬礼する。

「ではジェレミアよ。私の騎士になってくれ。」

ジェレミアに頼む。

「騎士…ですか？ 私が？ マリアン又様を死なせてしまった私をですか？」

信じられないように言うジェレミア。

「そうだ。ジェレミア・ゴットバルトよ。貴様は我が母。マリアン又に憧れていたと聞いた。そして、皇族に対する忠誠は誰よりも厚いことも。そんなお前だからこそ私の騎士になって私を守って欲しい。」

俺は頼む。

ジェレミアは

「御守りする？」

と聞いてきた。

「そうだ。私は母上という後ろ盾を失ったから、おそらくどこかの国に人質として出されるだろう。」

そんな私を守って欲しい。ジェレミア・ゴットバルトよ。私の騎士になってはくれまいか？」

手を差し伸べる。

ジェレミアは跪き、

「イエス、ユアハインス。この命、殿下に捧げます。」
手を取った。

よし、これで優秀な手駒ゲット。

コイツ結構強いから今のうちに取り込んでおく。

「我が騎士ジェレミアよ大事な話しておかなければならない。」

俺がすまなそうに言う。

ジェレミアは

「イエス、ユアハynes」

と言いながら跪いたままだ。

「ジェレミア。私はこのブリタニアに疑問を抱いている。」

とんでもない暴露をした。

ジェレミアは主のいきなりの謀反発言に固まる。

「私はこのブリタニア。つまり父の治世になってからのブリタニアはおかしい。としか思えない。」

俺は理由を言う。

ジェレミアは黙って聞いている。

「なぜ、ここまで侵略主義に傾く？ 我がブリタニアは資源に困っている訳でも無く、そこまで脅威にさらされている訳でも無いのに何故か？」

ジェレミアに聞く。

「恐れながら、皇帝陛下の侵略主義はパックスブリタニカ、帝国圏内の平和を拡大するためかと思われます。」

ジェレミアが言う。

「では聞こうジェレミアよ。今のブリタニアは平和か？」

と聞く。

ジェレミアは

「……いいえ、平和とは程遠いかと……。」

答える。

「そう、そのとおりだ。変に領土を広げ過ぎて国内の治安さえ低下している。」

私には父上は何か別の目的があるのでは？ と思うのだ。」

「目的…ですか？」

ジェレミアは聞いてくる。

「そう、目的だ。それが何かは分からないが、少なくともブリタニアのためでは無いことは断言できる。」

ジェレミアは黙って聞く。

「こんなことを私が言うのもおかしいが父上にブリタニアは任せられない。」

ハッキリとした反逆宣言をした。

「ジェレミア。もし私の言葉が信じられないならこの場で私を殺すのも良し、警備隊に引き渡してもいい。」

ジェレミアに言う。

ジェレミアは黙って跪き、

「私は殿下の騎士です。殿下に一生付き従います。」

また新たな服従宣言をした。

「あなたがとうジェレミア。そなたの命、私が預かった。決して私の命令無しに死ぬな。」

「イエス、ユアハインス。」

これで何とか本当の駒になった。

よし次の段階だ。

「ジェレミアよ。実はもう一つ疑問がある。それは母上の死についてだ。」

ジェレミアが僅かに眉間にシワを寄せる。

「母上は死の直前、お前達警備隊に対して下がるように指示したな？」

ジェレミアに聞く。

「はい、確かにマリアンヌ様は我々に少しの間下がれと命令されました。まさかその時に狙われるとは……。」

無念そうに言うジェレミア。

「私はそれが疑問だ。何故警備を下げる？ 誰かに会っていたのか？ 警備にも見せられない人物に？ 一体誰か？」

その言葉にジェレミアは

「その人物にマリアンヌ様は殺されたと？」

聞き返す。

「恐らくは。身分が高い人物なのか。それとも顔見知りだったのか？ 分からないことだらけだ。」

首を振り分らないように見せ掛ける。

実際は分かるけど言えない。

まさか叔父上が少年の姿で生きていてマリアンヌを殺したなんて。どんな物語だよ。

ギアスの証明でも出来ない限り不可能だ。

よし、次のことを考えるぞ。

「ジェレミアよ。お前はそのまま警備に戻り、何事も無かったように振る舞え。」

私の騎士になったことも言うな。」

ジェレミアに命令する。

ジェレミアは

「騎士になったことも言うてはいけませんか？」

残念そうに言う。

「そうだ。この後、私は父上に謁見する。その時に人質になることが決まるだろう。私の予想としては日本に送り込まれると思う。」

「日本ですか？」

ジェレミアは聞いてくる。

「そうだ。最近、サクラダイトの利権で争っている日本だ。私とナナリーで丁度良いだろう。」

少し笑いながら言う。

ジェレミアは不憫そうに見る。

「そしてジェレミアよ。私達が人質として出されたら、このままブリタニアに残り出世するんだ。」

突然の残留命令に

「お待ちください！騎士である私が本国に残るのですか！？」

ジェレミアは慌てる。

「そうだ。と言ってもお前の努力次第で直ぐに会える。父上は私達を人質に出しても直ぐに日本へ攻め込んでくるだろう。」

分かっていることなので言い切る。

「そのエリアにお前は正式な辞令を持ってくるんだ。」

ジェレミアに命令する。

「正式な辞令ですか？」

「そうだ。もし私の騎士とバレれば出世の道は無い。しかし、一般兵としてならお前の能力があれば直ぐ来れる。」

笑顔で言う。

「お前には本国の諜報員として頑張って欲しい。そして、私が行動する際にまた合流しよう。」

手を差し出す。

ジェレミアは手を握り返して

「イエス、ユアマジエステイ」

と最敬礼をした。

よん（後書き）

コード保持者って不老不死だけどフレイアの直撃食らったら死にますかね？

この結論で物語が大きく変わります。

あのバツハと謁見して、原作通りの展開をして日本に強制連行が決まりました。

ナナリーと一緒に生活か。

寒気がするな。

タダでさえ足手まといなのに、本当に足が使えないから何の役にも立たない。

まさに穀潰し。

一応、ジェレミアには俺の端末のアドレスを渡して連絡を着くようにした。

サーバーを何回も経由してセキュリティを幾重にも掛けてバレーにくくする。

アドレスも度々変えて攪乱する。

ジェレミアには暗号でアドレスは分かるようにする。

まあ、まだジェレミアと話すことは無い。

ジェレミアは基本受けだから連絡は俺からオンリーだ。

よほどのこと（シャルルが死んだなど）が無い限りジェレミアからは来ない。

さて、最後の仕事だ。

殺し屋にアーニヤを殺すよう依頼した。

やっぱり今のうちに殺しとく。ラウンズとマリアンヌは邪魔だ。

今ならまだアーニヤは従者見習いだ。
簡単に殺れる。

結果、成功。

スナイパーライフルにてアーニヤが一人の所を狙撃。
念のため、その殺し屋もサングラスをかけたさせたジェレミアに殺
させたので、マリアンヌのギアスは効果が無いはず。

よっしゃあ！！

今の人生で最高の瞬間だ。

難問を二個いつぺんに片付いた。

ゴメンね父上ww

アナタの愛する人を奪ってw

でも大丈夫Cの世界で逢えるさ。

俺が邪魔しない限りね。

ろく

日本にログインしました。

名目は留学だが、実質は人質なので護衛兼監視がウザい。
オマケに護衛のクセに助けねえ。

子供に殴られる位なら命に別状は無いから助けないのか？

畜生！ このガキ共射殺したいけど立場上出来ない。

マジで早く日本滅びないかなあ。

今日も飯の材料を買いに町に出掛ける毎日。

別に俺一人なら買い物なんかしなくてもコピーした食料があるからいいけど、ナナリーと同居だから怪しまれる。

アイツマジ邪魔。

一日中黙っててくれるから楽でいいけど、何で食事の補助までしないといけないんだよ。

俺は看護師じゃねえぞ。

一応、ナナリーを騙すために原作ルルーシュのように接したり、慰めたりする。

カウンセラーになった気分だ。

その分、町で遊びます。

久々にゲーセンに行ってストレス解消だ。

主にやるゲームはパンチングマシーンや格闘系ゲームなどストレス解消なもの。

俺、他人から見たら精神状態ヤバくねえか？
ま、たまに脱衣麻雀もするけど。

さて、楽しい時間も終わりだ。

ナナリーの餌を買わねえと。

原作のルルーシュは生活が厳しそうだったけど、俺は金は幾らでも出せる。

でもあまり高いものは買わずに、ナナリーに生活が厳しそうに見せる。

アイツに高いものなんて贅沢だ。

それに

「おい！ ブリタニア人！ 買い物か？！」

来やがったよ地元のカキ共。

何が楽しいのか毎日絡んでくる。

「今日は何買ったんだよ？！」

と後ろから買い物袋を奪おうとするので裏拳を鼻にかました。

軍隊仕込みだから効くだろう。

原作ではひ弱だったからルルーシュはただ耐えるだけだったけど、
こういうイジメは最初が肝心なことを知っている俺は体を鍛えてあるので素人に負けることはない。

と言ってもやり過ぎると護衛が俺を止めるのでせいぜい鼻血程度。
いきなり仲間が鼻血を出して泣き出して逃げたので周りも逃げた。

アイツ等なんで勝てないこと知っているのに毎日挑んでくるんだろ？

理解不能。

と首を振っている

「相変わらず容赦ねえな」

との声が聞こえた。

来たよ原作キャラ。

振り返り見る。

「なんだスザク？あれは正当防衛だぞ？」と返す。
出たよウザク。

原作で人氣が微妙なキャラ。
裏切りもの。自己中。精神錯乱。
などヤバい要素が多すぎるキャラ。

現実にはたら病院に即入院レベルだぞ？勿論精神科。

と頭で考えているて

「どうした？」と聞かれた。

まさか、お前の頭の中を考えていたとは言えないので

「いや、何でも無い」

と答えておく。

「それよりお前はどうした？ 見た限り胴着だが？ 稽古から逃げたのか？」

少しからかい口調。

「う…ま、まあな。」

と凶星感満載で返してきた。

この頃はまだタダのガキだからな。

タダのガキにしては身体能力が高すぎるけど。

軍事訓練を受けた俺が勝てないってどんな強さだよ？

とりあえずこの頃から非常識なスザクだった。

家に帰宅。

ナナリーに

「ただいまナナリー。今日もいい天気だよ？」
と言い、気遣うフリをする。

「……お帰りなさいお兄様」

ナナリーからは小声の返答だ。

「うん、ただいま。」

と気にしないように接する。

今日１日のことをナナリーに話す。

まるつきり嘘だが。

内容としては今日は野菜が高かった。や、もうすぐ牛肉が買える。などいかにも生活厳しいです。と言わんばかりな内容だった。

ナナリーはただ黙って聞くばかりだ。

これじゃあ犬に話しかけたほうがマトモな反応が返ってくるぜ。と思いながらも話しかける。一応日課なんで。

話し終わったら餌の用意だ。

この生活のおかげで料理スキルが大幅に上がったよ。

嬉しいんだか悲しいんだか分からない。

餌をテーブルに置き、ナナリーの食事介護をする。

目が見えなくても普通は一人で飯位食えるのに、コイツは未だに訓練すらしない。

マジム力つく。

もしかして自分はこうしてもらうのが当たり前とも思っているのか？

だとしたらコイツもうダメだ。

生きる価値すら無い。

今の所Ｃ・Ｃは見かけない。

やはりマリアンヌが死んだから俺達の様子を見には来なかったか？

まあ、いいや。

まだ会ったとしても何も無いし。

まさかいきなり出会い頭に「ギアスください」なんて言ってもダメだろうからな。

なな

遂に日本侵略

よくやってくれたバツハ、いや親父。

これでようやく監視が終わる。

当たり前だが、みんな右往左往して混乱状態だ。

この時をどれほど待ったか。

まあ、実際は定期報告でジェレミアから聞いてたけどね。

そう言えばジェレミア出世しました。

騎士になったのでナイトメアにも乗れるようになったようです。

今は本国で訓練中らしいです。

頑張れジェレミア。

君は結構活躍する予定だ。多分。

僅か三週間程で陥落した日本。

弱！

まあ仕方無いか。

ナイトメアは反則だもんなあ。

予定通りスザクが父親を殺して日本は無条件降伏。

今はあの原作のブリタニアをぶっ壊す宣言する所です。

ちなみに重大発表。

ナナリー死にました。

というか、俺がブリタニア軍の攻撃に見せかけて射殺しました。
現在火葬中です。

火葬を見つめて泣きながら宣言します。

「スザク、僕は、いや俺は！　ブリタニアを、ぶっ壊す！　ナナリ
ーの敵を取る！」

敵が敵を取るという不可能な状況を真面目に宣言する。

スザクは無言。

そんなに親父殺しが悲しかったか？

俺なんて母親と妹を殺したけど何とも思っただろ？

スザクと別れて原作通りアッシュフォード家に逃げ込みます。
ナナリーはいませんけどw

はち（前書き）

これからの話はこれまでより更にご都合主義な展開になります。
明らかに「この展開都合良すぎねえ？」というものが沢山ありますがご勘弁を。

はち

アッシュフォード学園に居住を移した後、俺は行動を開始した。

先ずはブリタニア人の代理人を立てて総合商店をオープンさせた。恋姫時代と同じ展開だが、これをやったほうが後々動き易くなる。ちなみに代理人には洗脳を施した。ギアスが無くても人間は洗脳出来る。時間と手間が掛かったのでコイツ以外にはしないが。

店は瞬く間に繁盛し、店舗拡大をしてトウキョウ租界を独占した。その店は商品の値段がとて安く、さらに名誉ブリタニア人やイレブンも雇い入れるので有名になった。当初、名誉はまだしも、イレブンを店員として雇うのは不評だったが、きめ細やかなサービスをするイレブン達に、ブリタニア人達も徐々に認めていった。

また、ゲットー復興にも非常に協力的で、支援を惜しまなかったことからイレブンが大量に就職したかった。その影響か、レジスタンス活動は原作に比べて少なかった。その店を他の租界でも広め、二年後にはエリア11を独占したのでイレブン達も職に困ることは無くなっていった。

店舗拡大中に組織作りと研究を始めた。

組織とは別にブリタニアに反抗するためのものではない。

俺は他の転生者のように日本解放をしたい訳ではない。

そのため、黒の騎士団みたいな正義の味方では無く、俺の命令通りに動く私兵集団が欲しいのだ。

軍人崩れや暇なブリタニア人、イレブンや他のナンバーズなど様々な人種が入り混じった軍になった。

普段は主に広大な中華連邦内で訓練に勤しんでいる。

ちなみに装備は何でもある。

戦車、戦闘機、戦艦、ナイトメア、ミサイル、銃火器など、様々な武器を使った訓練をしている。

更に、たまにブリタニア軍のフリをしてEUを襲い実戦慣れをさせる。

次に研究、開発だ。

主に開発をさせているのはフレイアだ。

ニーナ・アインシュタインという明らかに現実で核兵器を作った天才を彷彿とさせる少女。

多分彼女も天才なんだろう。

しかし、彼女は理論研究までは一人でやってきた。

フレイア自体の設計はブリタニア軍だが。

一方、こちらは最初から世界中の科学者を集めてやらせる。

ブリタニアに攻められたから研究出来なくなった奴や、ブリタニア人だけと周囲からわかってもらえなかった天才など、様々な天才、秀才を集めた。

世界中から集めた研究者百名以上でフレイアを開発させる。

研究設備もブリタニア軍以上のものを地下に備えた。

フレイアの材料であるサクラダイトは無限のようにあるから実験の放題だ。

原作では理論構想から実戦配備まで天才達が僅か一年で完成させた。しかし、こちらは天才の集団とは言えないが、そこそこ優秀な科学者を大勢集めたので数年は掛かると思うが完成するだろう。

それと平行して大陸間弾道ミサイルの開発を命令した。

この世界には核兵器が無いから弾道ミサイルが無い。

ということは、地上のミサイル防御力はアメリカ軍より弱いと思い、フレイアを弾頭にした弾道ミサイルを作らせている。

そしてフレイアが完成しなかった時のために核弾頭も作らせている。現実では原爆を作るのに五年以上の歳月がかかった。

しかしこちらの世界では核兵器は基礎論文しか発表されていない代わりに、スパコンなどコンピューターや技術力があるから現実世界より早く出来るハズだ。

原爆が出来れば次は水爆だ。

フレイアの破壊力はリミッターを外しても大体半径百キロ位。

しかし、水爆ならさらに大きな威力を発揮する。

放射線が残るけど。

それは二の次だ。

それに原子力発電が出来ればエネルギー問題も多少は改善される。

街中にソーラーパネルを建てずに済む。いや、別に建ててもいいんだけどね。

そして次はナイトメア開発だ。

この部門にも専用の開発者を多数つけて開発を進めさせている。

俺の軍には量産性は必要無いから、ひたすらハイスペックで操作性

が高いものを作らせる。
ランスロットみたいに操縦士を選ぶ機体はいらない。

この部門にはラクシャータが是非欲しいが、まだインド軍区で頑張っている。

しかしもう直ぐ辞めるだろう。

インド軍区にはラクシャータの研究所に資金を出さないように工作しておいた。

金とグラスゴーなどナイトメアを提供すると言ったら喜んでやってくれた。

金ってどんな時代でも役に立つね。

ラクシャータはもう直ぐ辞めるだろうから今からこちらに誘う。
条件良いから来るだろう。

そして、次に重要なのはギアス響団とギアスユーザー、コードユーザーだ。

ギアス響団は現在中華連邦の砂漠エリアを探させている。

原作でルルーシュが探し当てられたのだから時間を掛ければ見つかるはずだ。

そして、一番面倒くさいのはギアスユーザー。

というかマオだ。

半径三百メートルの思考を読むという脅威。

早めに始末しなくては。

確かオーストラリアに家を建てたという言葉があっただから、現在不審な建設などが無いか搜索中。

一応中華連邦の田舎も探している。

心を読むギアスを持っていれば人との関わりを避けるはず。

しかし生きていくために買い物は必要だからそこそこの田舎を探す。もしかしたらC・Cも一緒かも知れないので現在はこちらに力を入れ、衛星を使って調べ中。

エリア11に入れば直ぐにわかるように監視プログラムを作っていた。

全て代理人を介しているため手間がかかる。

まあ、仕方ないか、今の俺は小学生だもんなあ。

はち（後書き）

ちなみに総合商店の名前募集中です。

最初は北郷総合商店にしようかと思いましたがイレブンの名前では不自然かと思いやめました。

何かブリタニアらしい名前を募集します。

ご協力、お願いします。

きゆう

ラクシャータゲット。

遂に、インド軍区を出てフリーになったからソッコー勧誘。
条件言ったら即答OKだった。
そりゃあそうか、今までより待遇良いし、材料使い放題で研究に打ち込めるからね。

現在開発中なのは紅蓮だ。

原作では高価さと汎用性の無さから一機しか出来なかったが、俺は何機でも作れる。

更に、操作性を上げて汎用機にしてやる。

原作みたいに専用機は作らない。

あんなの無駄だ。

それと飛行ユニットとフロートユニットだ。

あれがあるのと無いのとじゃ有利さがエライ違うからな。

制空権は重要だ。

それとハドロン砲。

やっぱりあれがあるとほぼ無敵だもん。

あれをコピーしまくればこの時代なら最強じゃね？

それと同時に斑鳩を設計中だ。

フロートユニットが出来なくては意味が無いけど設計は始めている。
ちなみにゲフィオンディスターバーは既に出来た。

これでハドロン砲の収束はコントロール出来る
まだ肝心なハドロン砲は出来てないが。

フレイアの開発は順調で、もう直ぐテストに入る。

テスト地はやはり、被害が出ても誤魔化せる広大な中華連邦に巨大
地下実験場を建造中だ。

核と違ってフレイアは被害がデカいから地下でも大変だ。

一方、原爆はもう直ぐ出来そうだ。

当初は放射線被害が出かけてヤバかったが、持ち直して研究は大詰
めだ。

これまた地下核実験を行う予定だ。

これが成功すれば次は水爆だ。

そう言えばコードユーザーって再生能力凄いけど、フレイアの直撃
食らえば体が消滅する。

そうなったらどうやって復活するんだろう？

もしかして殺せる？

現在、総合商店は総合商社に発展しました。

エリア11から勢力拡大中です。

他のエリアでも様々な商店をオープンして販売網の独占と権力を増
やす。

他エリアでもそのエリアのナンバーズを積極的に雇い入れ、人件費
を節約。

ナンバーズならキツイ仕事も喜んでやるため使い勝手が良い。

最初はどこのブリタニア人にも受け入れ難いが、他の店を吸収合併しまくればその総合商社加盟店で買っしか無い。

そうなれば自然と慣れる。

そのおかげかナンバーズの就労状況に反比例して反乱活動は下降中だ。

誰だって働き口があつて安定した給料が貰えれば反乱なんかしたくない。

前回の経験から分かる。

たまに、軍から「ナンバーズに優し過ぎる」と文句を言われるが、実際に反乱活動が無くなってきているので向こうも強くは言っていない。

近々本国にも出店予定だ。

ギアスユーザーは、て言うかマオはまだ見つからない。

もうC・Cに捨てられたのか？

とりあえず未だに中華連邦を探し中。

ちなみにギアス響団は見つかりました。

上手く偽装していたけど、大人数が生活しているので隠しようが無かった。

しかし、現在の主力がグラスゴーの改良版位しか無いので攻めては無い。

もしも原作みたいにV・Vが変なナイトメア出して来たら怖いので攻めない。

もしかしたらフレイアの実戦導入はギアス響団壊滅に使われるかも。

じゅう

ラクシャータの紹介でロイドとセシルもゲット！

ロイドはこの時まだランスロットの研究はしてても、理論段階だからシュナイゼルに目を付けられて無い。

そのため誘うのは簡単だった。

ランスロットの開発をまだしていなかったからブリタニア軍よりも良い条件のうちに喜んで来た。

セシルは何だか言ってたけど、商社のナンバーズに対しての寛容さやシャルルの統治の可笑しさを丁寧に説いた。

結局最後はロイドが行くと言ったら何だかんだでコッチに来た。

こいつロイドの母親か恋人？

まあ、良い。これでナイトメア開発は進む。

紅蓮が遂に出来ました。

初期の式式ですが。

輻射波動機構も備えているのでそこそ強力。

原作と違ってハイスペックだけど汎用性を持たせた機体が出来た。

カレンしか操縦出来ない機体なんかないので汎用性にするため若干性能は落ちる。

しかしエヴァみたいに決められた人材しか使えないヤツは汎用機に勝てない。

いくら操縦者が優れていても、性能がほぼ同じなら多数で攻められれば勝てっこない。

完成した紅蓮は若干暁に似ているようだがまあそこは仕方ない。

次は紅蓮可翔式を作るように依頼した。

ちなみに、飛行ユニットはロイドの介入が出来たのでそんなに作るのに時間は掛からないだろう。

ちなみにハドロン砲も出来た。

ロイドが来てくれたので拡散式は意外に簡単に出来た。

そこにラクシャータのゲフィオンディスターバーを使って収束に成功。

何かロイドが死ぬほど悔しがってた。

自分の研究を横取りされた気分なのか？

そこはセシルに慰めて貰う。

ロイドとセシルには次なるナイトメアのためにエナジーウイングの開発を依頼。

是非とも紅蓮最終形態の聖天八極式を作って欲しい。

コレをコピーしまくればほぼ最強だろう。

ランスロットもコイツに負けたし。

そして斑鳩の建造も開始した。

フロートユニットが出来たので作れるハズ。

ハドロン砲を積みまくって攻撃力を上げる。

しかしシールドはまだ出来ていないため防御力はゼロに等しい。

フレリアが出来た。

意外にも原爆が出来る前に出来た。

ロイドマジ天才。

ロイドをフレリア開発に参加させたら研究が進みまくって原爆より早く出来た。何？このチートキャラ。

原爆もテストまではこぎ着けたけど、臨界点に達しなくて失敗だった。

フレイアが出来たので原子力発電に切り替え。
これでクリーンな殺戮兵器の完成だ。

早速、コピーしてギアス響団を狙った。
念のためにリミッターを外して撃った。

結果、半径百キロが無くなり地面、ていうか砂漠が抉れた。
多分地下に何かあっても消滅したハズ。

一応生命反応は無いか周囲を調べたが何も無かった。

もしかしてV・V死んだ？

こんな呆気なく？

とりあえずバレるとマズイので直ぐに撤収。

番外編いち

ラクシャータサイド

全く、数奇な運命を迎えたものだよ。

インド軍区から突然予算が降りなくなったから見限ったけど直ぐに勧誘が来た。

なんとエリア11で総合商社をやっているブリタニア人からだった。ブリタニア人ということであんまり乗り気じゃ無かったけど、調べたらナンバーズにも優しい会社をやっていると有名だから興味本位で返信したらその条件がすごかった。

年俸が以前の3倍以上なのも驚いたけど、見学させてもらった設備はブリタニア本国にも負けてない。

いや、消耗品の補給の速さなどは明らかに越えていた。

更に、どこから手に入れたのかサクラライトが沢山あって実験もし放題。

広大な実験場も完備されてて研究者には楽園だった。

2つ返事でOKした。

よくよく考えるとおかしな点も沢山ある。

なぜ正規軍でもないのにこんな充実した設備や材料があるのか？

いくら今や世界規模の総合商社でもこんなには無理だ。

だからと言ってレジスタンスという訳でも無い。

別にこれといった敵対勢力がある訳でも無い。

組織のトップがブリタニア人だからブリタニアに反抗することも無いだろう。

そこが気になったからトップに聞いたら、何と敵はブリタニア皇帝だつて言うじゃないか…。

何故かと聞いたら、現皇帝シャルル・ジ・ブリタニアは無意味な侵略主義をしているというものだった。

さらに話された内容はとんでもないものだった。

何と、皇帝は人体実験で人には有り得ない能力を持つ人間を作っているという映画か何か本みたいな話だった。

最初は何か冗談かと思ったら、真剣な顔をしているので本当と分かった。

証拠として様々な実験データや映像を見せてもらった。

確かに現実では有り得ないことだった。

幼い男の子が人を殺す映像だが、不思議なのは堂々と殺していることだった。

警備もいるのに誰も止めない。

それどころか周りの人間、いや少年以外は誰も動いてない。

合成映像のようだったが、合成でないことは見れば分かる。

なる程、確かに異能力を持った人間がいることは納得出来た。

こんな人間を作る皇帝は確におかしいと思えた。

コレなら何故シャルルを落としたがるかは分かった。

さらに聞くと、さる皇子の協力も取り付けてあるから皇帝を落としたりその皇子を皇帝にするらしい。

その皇子を傀儡にしてブリタニアを影から操るつもりだろう。

成る程、これなら不自然な研究所や材料にも納得がいく。

皇位を狙う皇子ならそれなりの権力も持っているからこの資金が出るのか。

確かに傀儡を使うというあまり誉められた内容では無いが、侵略主義やエリア解放などをするらしいから一応は正義の名目をつく。悪くはない。

トップにロイド伯爵とセシル・クルーミーを紹介して欲しいと頼まれたので紹介した。

あの二人が来るのなら研究もはかどるだろう。

さあて、研究に戻るかな。

面倒な話は上に任せて私は研究だけしてればいいや。

じゅうち

V・V死にました。

その後、半径百キロの大穴は流石にバレたので軍やテレビ局がっぱい来てミステリーサークル扱いです。

科学者達の見解は隕石の衝突で片が付いた。

しかし、ある科学者が「宇宙人が地球の砂を持ち帰った。」という発言をして大論争勃発。

その大論争が起きた辺りから下火になり、僅か1ヶ月でブームは去った。

ブーム終わるの早！

ていうか結論が宇宙人説が多たって大丈夫か？

まあ、なんだかんだ騒ぎが収まったから良いけど。

周囲百キロをくまなく探す。

もしかして生き延びて再生してないか探すが見つからない。

半年に渡って探したが見つからないので死んだようだ。

キャッホー！！

不老不死を殺したぞー！

確かシャルルのアーカーシャの剣を発動するのにコードが2つ必要だからもうこれで終わりだ。

これでアイツのアーカーシャの剣は珍しいただの観光スポットに変

わった。

最高の気分だ。

フリー……。

何か…もう別に良いな。

だって俺はシャルルのアーカーシャの剣が起動するのがなんか怖かっただけだし。

その野望が終わればもう表立って動く必要無い。

別にシュナイゼルの恐怖での支配もそこまで悪いとは思って無いし。ていうかフレリアは俺が独占してんだけど。

ニーナはフレリア完成と同時に事故で死んでもらった。

そのため世の中には理論すら発表されてない。

でもシュナイゼルは俺のような性格だから若干怖いんだよなあ。

自分が敵に回ったらと思うと脅威だよな。

やっぱ殺すか？

じゅうに

やっぱ行動続けます。

シュナイゼルENDは不安なんで。

V・Vを殺ったのでシャルルの野望は完全に終わったらしいです。シャルルは現在、アーカーシャの剣に引きこもってます。

よほどショックだったのだろう。

V・Vの死では無く、自分の計画が崩れたのが。

政務は完全にシュナイゼルにほっぽり出して現実逃避中なんだろう。ジェレミアの報告では公式の場には一切出なくなっただろう。

首都では「皇帝は死んだ？」という噂すら流れている。

俺が流したのだが。

ちなみに、念のために世界中のギアス関連の遺跡を爆破した。

もしも何かに使われたりしたら面倒だったので今の内に破壊した。

まあ、良い。

オッサンの引きこもり話なんてしたって面白くも何とも無い。

先ずは現状確認だ。

紅蓮の可翔式が完成。

これで制空権も独占出来る。

ゲフィオンディスターバー弾頭のミサイルも積んでいるから敵ナイトメアの行動を止められる。

何か…コッチサイドのナイトメアは今さらだがもう第7世代を超えて第9世代にまでいきそう。

ブリタニア軍はまだサザーランドがやつと試作段階に来たらしい。グロースターは影も無い。

3世代も差が付いたんですけど。

まあ、いいや。

後はエナジーウィングとその他諸々が出来れば最終段階の聖天八極式の完成だ。

それが完成したら多分原作の間は最強の筈。

斑鳩がやつと完成。

防御シールドについてはラクシャータとロイドが完成させた。

何か原作より強固で凶悪な斑鳩が出来た。

全方位ハドロン砲はマジ怖いです。

ちなみに、念のためにアンチフレイア兵器も完成。

もしもフレイアを盗まれてもされたら一大事だからな。

これで少数の犠牲で済む。

マオが見つかった。

オーストラリアに建てた家でくつろいでいた所を襲撃。

いくら心が読めても集団で襲撃されればなすすべ無く、射殺。

しかし、何人か心の傷を抉られたせいかなマオへの恨みが強くなったらしく、マオの遺体はスタボロにされた後、バラバラに切り分けられ、グレートバリアリーフに投げ込んでサメの餌にしたらしい。

人間って怖いね。

ちなみに、C・Cは見つからなかった。

既にクロヴィスに捕まったのか？

もう直ぐジェレミアがエリア11に赴任するからその時調べさせよう。

ちなみに現在、原作一年前。

高校一年だ。

生徒会には入っておらず天文部の幽霊部員をやっている。

天文部は適当に選んだ。

原作通りのミレイの悪ノリに付き合ってられないのであまり接触しない。

そのため、生徒会役員とは接触が少ないため友達にもなっていない。
せいぜい知り合いレベル。

厄介なシャーリーのフラグは存在すらしていない。

じゅっさん

原作スタートの年になった。

先ずはエリア11に赴任したジェレミアに会う。
総合商社の地下施設にて

「久しいなジェレミア。」

七年振りにジェレミアを肉眼で見る。

ちよつとマツチヨになったのかガタイが良くなった。

「は！ 殿下もご健勝のようで何よりです。」

跪きながら話すジェレミア。

「ジェレミア、我が騎士よ。」

遂に、本格的に動く時が来た。」

ジェレミアに皇帝を落とす準備が整ったことを伝える。

ジェレミアもとうとうか、と顔を上げて。

「イエス、ユアマジエステイ。」

と忠誠を新たに答える。

「ジェレミア、皇帝が人体実験を行っていることはもう知っているな？」

事前に資料を送っておいたため

「イエス、ユアマジエステイ。」

異能を持つ人間を作るための実験をしていると。」

ジェレミアも実際に見た訳では無いため、半信半疑のようだが俺からの資料だったため信じたようだ。

「その人体実験をクロヴィスも独自にしている。」

その事実は知らなかったのか僅かに動揺する。

何せこのエリア１１の総督が人体実験をしているなど知られたらヤバイ。

「どうやらクロヴィスは不老不死の研究をしているらしく、サンプルも存在するらしい。」

ジェレミアはまさか！と目を見開いた。

「…ふ、不死不死をですか？」

信じられないように思わず立ち上がる。

「そうだ。見た目はただの十代後半の女性だ。しかし証拠がある。」
パソコンを起動してジェレミアに見せる。

内容はクロヴィスの部下が女性の頭を撃ち抜く映像から始まる。

撃たれた瞬間ジェレミアは彼女は死んだ。と確信した。

しかし女性はいくらして目を覚ました。

ジェレミアはその光景に思わず「…バカな…」と言うほど驚いた。
そりゃあそうだろう。

普通、人間は脳を破壊されたら生きれない。

この映像は研究者達が女が本当に不死なのかを証明をするために実験した映像だ。

ちなみにクロヴィスに提出したが、クロヴィスは見たがらなかった。
俺はその映像を潜入させたスパイにコピーさせた。

映像が終わり、ジェレミアが呆然としている。

「どうだジェレミア。信じられない映像だったろう？」

しかし現実だ。不死の人間は実在する。

そしてクロヴィスはその不死をコピーしたがっている。」

「コピー…ですか？」

「そうだ。クロヴィスは皇帝になりたいらしくこの実験を行った。

この不死の人間を兵士として量産出来たら最強の軍になる。その軍で皇帝になる気だ。」

まったく適当な推理だが真剣に語る。

「こんなことが許されると思うか？ ジェレミア。私は許さない。不死など。」

人間は死ぬから輝ける。有限だからこそ生きていける。

もし自分が不死になったりしたら私は耐えられない。何を目標に生きて行けばいいか分からないからだ。」

一旦切りジェレミアを見る。

ジェレミアは黙って聞いている。

「ジェレミア。私はこんな風に人間を改造するクロヴィスを許さない。」

このエリア１１の総督に相応しく無い。だから、クロヴィスを総督の地位から落とす。

そして、彼女には申し訳無いが、彼女は存在してはいけない。存在を消し去らなければならない。

そのために我が騎士ジェレミア。私は動く。そのためにお前の命、私に預けてくれ。」

ジェレミアは黙って跪き

「イエス、ユアマジエステイ！」

忠誠を確かめた後に

「これは確定情報では無いが、この女性は異能の力を他人に与えるらしい。」

ジェレミアにギアスの情報を教えとく。

「力を与える…のですか？」

「ああ、遙か昔からこの女性は文献に載っている。この不死の女性は人間を選別して力を与え、自分の願いを叶えさせる。とある。」

まあ、あくまで伝説のようなものだが、不死の人間が存在するんだ。

あながち嘘では無いかもしれん。」
ジェレミアは頷く。

ここでジェレミアが

「しかし殿下。不死の女性の存在を消し去ると言ってもどうなさるおつもりですか？」

最もな疑問だ。

しかし既に解決済みだ。

「心配いらん。実是不死の人間を殺すのは初めてではない。」

ジェレミアは知らなかったので素直に驚く。

「殺したことがあるのですか？」

「ああ、一年前。」

中華連邦でミステリーサークル騒ぎがあっただろう？

実はあの砂漠には皇帝の研究所があったのだ。

そして皇帝も別の不死者を手に入れていた。」

不死者が二人もいたのか？ と驚くジェレミア。

「皇帝は不死者が与える力を研究していた。」

そのことを知った私は新兵器であるフレイアを使用してその研究所ごと消し去った。」

「フレイア？」

ジェレミアにはまだ話していなかったから知らない。

「フレイアとはこの地球上で最も破壊力がある最強の兵器だ。」

去年完成したばかりで威力を確かめるために研究所に撃ち込んだ。

フレイアは理論上物体を消滅させる兵器で不死の人間にも効くと思
い開発させた。」

結果はあの大穴だ。

研究所は消滅した。

不死者も探したが見つからなかったことから消滅したんだろう。」

ジェレミアはあの大穴にそんな秘密があったのかと驚愕した。

「では、そのフレイアを用いれば不死者も殺せる。ということす

か？」

「そうだ。しかしこのフレリアは威力が高いことからむやみに使うことが出来ない。」

「だから現在は威力を抑える研究をしている。」

「ジェレミアは成程。と納得。」

「確かにあれだけの大穴が開いたことから相当な威力が予想される。いちいちあんな大穴開けてられないから研究をしているのだろう。そう納得した。」

「さて、ジェレミア。早速だがお前に任務を言い渡す。」

「ジェレミアは気を引き締める。」

「イエス、ユアマジエスティ。」

「現在、クロヴィス直属の部下達が守っている研究所に、私の部下達を送り込んでその不死の女性を奪取する。」

「お前はその手引きをせよ。」

「俺の命令にジェレミアは」

「イエス、ユアマジエスティ。」

「文句一つ無く従う。」

「やっぱりコイツ使い勝手良いな。」

「部下達を潜入させる間、お前は警備隊を遠ざける。」

「そして部下達が女性を奪取した後、お前は騒ぎを大きくして混乱を誘え。」

「その隙に脱出せよ。」

「ちなみに女性はカプセルに封印されていて意識は無いらしいが気をつける。」

「イエス、ユアマジエスティ。」

「そう最敬礼した後、ジェレミアは準備のために帰って行った。」

さあ、これからだ。

原作を完全にぶっ壊す。

俺は原作のように死んだりしない。

じゅっよん

原作通りC・この入ったカプセルの奪取に成功。

ちなみに扇グループは全員殺した。

アイツ等性格的に信用出来ないし、使い過ぎると暴走するギアスを使つてまで欲しくない。

それに日本解放が目的では無い俺とは反りが会いそうに無い。

カレンは残しとこうか迷ったけど、アイツの性格や生き方が気に入らない。

いくら兄の頼みで嫌々だったからってブリタニア人になったんだから立場を利用しろよ。

空いてる時間にバイトするなり、男を騙して金ふんだくるなりすれはレジスタンス活動の資金になっただろうに。

原作を見ている限り何にもしてないじゃん。

意味不明。

ちなみに、いくら戦闘能力が高くても機銃の掃射にはかなわなかったらしくアツサリ死んだ。

原作キャラでもマトモに攻めれば脆いことは経験から知っている。

ちなみに玉城が最も殺しにくかった。

危機察知能力は抜群に高かったらしく、攻める直前に逃げられかけた。

しかし、数で攻めてあえなく射殺。最後は喚いていたが意味不明だった。

カプセル奪取は簡単だった。

計画通り、ジエレミアが警備を遠ざけてくれたから、研究者を

皆殺しにして記録や資料も全て破壊してから逃げた。
俺はギアスの研究に興味無いから必要無い。
むしろ俺以外にギアスを持っていたら危ないのでギアス保持者は全員殺す。

さて、これからが一番大事な瞬間だ。
ここでギアス貰えなかったら戦力は大激減だ。
そうになったら原作みたいに日本解放に動くしかない。
もしその選択肢だと俺の死亡率は大幅に上がる。
そうならないように小細工を弄する。

まず原作通りにシンジクゲッターに逃げる。
原作と違って追われて無いが。

速やかに逃げたからバレルのに多少時間が掛かるだろう。
その短い時間が勝負だ。

原作通り、地下鉄構内をにトラックを止める。
運転手は先に逃がし、Ｃ・Ｃの入ったカプセルと俺だけになる。
カプセルに触れ、原作通りに聞こえるか試す。
そしたら

『ミツケタ、ワタシノウツワ。』

という感じの音が頭に響く。
聞こえた瞬間、カプセルが開いてＣ・Ｃが無駄にポーズを取りながら出て来た。

原作通り、Ｃ・Ｃの拘束を取っている最中に
「そこで何をしている！」
という声が聞こえた。

振り向くと原作のような親衛隊の制服を来た男達が現れる。

俺は見つかって驚いたフリをする。

「い、いや、これは……」

実際は仕込み何だが。

親衛隊の制服を着ているのは俺の私兵達だ。

しかし私兵達は俺を知らないから代理人の命令通りに演技を続ける。

「その女は最重要機密の存在だ。それを知ったお前には悪いが死んでもらう。」

銃を俺に突きつける。

全部仕込みだが結構怖い。

なぜなら、私兵達は俺をただのブリタニアの学生にしか思っていないから、最悪殺しても良い。と思っっているだろう。

もし誤射でもされたら本当に死んじまう。

だからか周りの空気は半端じゃなく緊迫する。

端から見たらとても演技に見えないだろう。

若干後ろに下がり本当にヤバイように演出する。

額には冷や汗が出て泣きそうになって来た。

そして、私兵が銃を撃った。

ここで原作通りにならないとデッドエンドになってしまうのでC・

Cに必死に祈った。

「殺すなー!!」

祈りが通じたのかC・Cが庇って額を撃たれた。

俺は駆け寄って見る。

「ち、死んだか。まあ良い。女は既にテロリストに暴行されていて死亡。我々親衛隊はそのテロリストを射殺。

そんなシナリオで良いか。」

セリフを言っているだけだが本当のように聞こえるから怖い。

そして私兵が今度は俺に銃を向ける。

そして原作のルルーシュのように俺は必死に考える。

『何なんだよコレは？ こんな所で俺は終わるのか？』

畜生！ 力が力さえあれば！ 全てを変える力があれば！』

だっ たっ け？

とりあえず嘘はついてない。

そんな感じに考えていたら突然手を掴まれて。

『お前はまだ死にたく無いようだな。 まだ果たすべきこともあるよ
うだ。

力が欲しいか？ 王の力が。

これは契約だ。 力を授ける代わりに私の願いを叶えてもらおう。 しか
しこの力を得た者は他人とは違う理で生きることになる。

王の力はお前を孤独にする。

それでも力が欲しいか？』

長ったらしいセリフをようやく吐きやがった。

『良いだろう。 結ぶぞ、その契約！』

左目に何かが入った気がした。

C・Cはグツタリとして手を話した。

意識は完全に無くなっ たらしい。

そして俺は

『ルルーシュ・ヴィ・ブリタニアが命ずる。 私に従え。』

言ってみたかったセリフを言う。 若干違うが。

俺の目の変化に戸惑っていた私兵達はバッチリ目が合い。 ギアスに
掛かった。

「イエス、ユアハインス」

全員が跪く。

この態度は私兵達が全員ブリタニア人だったからか？

よし、手に入れた！

これで勝率が大幅に上がる。

そうしばらく歓喜していたが気付いて私兵達に命令する。

「この女に用意しておいた薬を打ち、カプセルに戻せ。」

そう命じてその場を去った。

用意しておいた薬は鎮静剤と睡眠薬のミックスで致死量の実に10倍以上の量だ。

いくら不死のC・Cでもしばらくは動けなくなるはず。

その隙にカプセルに戻して再封印。

後はカプセルごと中華連邦に運んで、リミッターを付けたフレイアの爆破実験に使う。

前のV・Vは位置が分からなかったのでリミッターは外してアバウトに狙ったが、今回のC・Cは動かないのでリミッターを付けた百メートル位の破壊力に抑えたフレイアで消滅させる。

これで完璧だ。

さあ、後は大詰めだ。

勝ちに行くぞ。

じゅっ

ギアスを手に入れた俺はトウキョウ租界の政庁に向かった。

政庁は混乱を迎えていた。

事前に命令しておいた通りに、ジェレミアは騒ぎを大きくして政庁を混乱させていた。

テロリストに毒ガスを盗まれたや、何かの研究者が殺された。またはクーデターが起きたという噂も流れていた。

既に待機していたジェレミアを連れてクロヴィスの執務室に向かう。途中の警備は俺のギアスで黙らせた。

ジェレミアは俺の目と能力に驚いていたが、事前に知らせておいた通り、不死者から異能の力を与えられた。と伝えると、色々心配されたが、今のところは問題無いと伝え安心させる。

クロヴィスの執務室にたどり着き、門番に扉を開けさせた。中にはバトラーや親衛隊がいたがジェレミアと俺のギアスで黙らせる。

クロヴィスは驚き、イスから転げ落ちた。

「き、貴様等何者だ?! わ、私を誰だと思っている!?

このエリア11総督、クロヴィス・ラ・ブリタニアだぞ!」

クロヴィスが腰を抜かしながら威張る。

せめてイスに座りながら威張れよ。

クロヴィスに近付き顔を見せる。

クロヴィスは最初はビビっていたが、徐々に落ち着き、俺の顔をよ

く見て驚愕した。

「ル、ルルーシュ？」

信じられないものを見たようにさつきより目を見開く。

「そうです。兄上。 皇位継承権第17位皇子、ルルーシュ・ヴィ・ブリタニアです。」

「し、しかしルルーシュは死んだはず……。」

クロヴィスは今度は幽霊でも見たように顔を青白くする。

「戻って来ました殿下。全てを変えるために。」

そのセリフを言った直後にギアスを発動させ

『俺の命令に従え』

とクロヴィスにギアスをかけた。

クロヴィスは直ぐに立ち上がり

「イエス、ユアマジエステイ。」

最敬礼をした。

よし、これで一先ずこのエリア11は俺の支配下に置いた。

原作でルルーシュがクロヴィス殺すけど、意味分かんない。

クロヴィス殺すからコーネリアやユーフェミアが来たんだろ？

クロヴィスにギアスかけて支配下に置けばもつと動きやすかった筈だ。

だってコイツ無能だもん。

無能だからこのエリア11を掌握しきれなかったんだろ？

最初っからコーネリアが来ていたら日本解放戦線なんかもう存在しなかっただろう。

ともかく、これで第一段階はクリアだ。

先ずクロヴィスを支配下に置いて指揮系統を牛耳る。
次に、さつき黙らせたバトラーや親衛隊にギアスをかけ支配下におく。

後は順々に指揮系統の上からギアスをかけて支配して雑兵達は集団でかけて手間を省く。

先ずはこの政庁を支配下におく。

そして、俺の私兵達をブリタニア軍に組み込み正規軍にする。

そうすればこのエリアは現時点では最強だ。

研究や実験もやつと堂々とやれる。

早く紅蓮聖天八極式を完成させねば。

先ずはこの政庁を制覇しなくては、他の租界はクロヴィスの命令に従うしかないから問題無い。

せれに、各租界のトップにはギアスを掛けた。

もしも下の奴が本国に密告しようならスパイに殺させる。

それに、例え文句を言われようと黙らせる戦果はもう直ぐ出来るしな。

じゅうつろく

先ずはこのエリア１１の安定だ。

前にも言ったが、このエリア、というかエリア全体には俺の総合商社が広まっっていてナンバーズの就労状況は非常に良好。エリア全体の景気は本国より良い。だから反乱自体は原作に比べれば非常に少ない。

しかし、全く無い訳でも無い。

あくまでエリア解放に動く輩はこのエリアにもいる。

このエリア１１にも日本解放に向けて頑張る勢力も存在する。

その筆頭は日本解放戦線。

そして影ながら支援するNAC。別名キョウト。

他にも弱小だがレジスタンスのグループがいる。

出来ることは嫌がらせレベルだが非常にウザい。

だから皆殺しにする。

先ずはキョウトだ。

キョウトの重鎮と皇神楽耶。

つまりキョウト六家をギアスで服従させる。

やり方は簡単だ。

クロヴィスが呼べば来るしかない。

更に、名指して呼べば惚けることも出来ない。

どんなに格式があっても所詮被支配層。本気になられたら抵抗なんて出来ない。

コイツらにレジスタンスへの資金や技術、物資の提供を停止させる。

と言っても紅蓮を作ったラクシャータはこちら陣営にいたのでロクな戦力は無い。

せいぜいあるのはグラスゴーのコピー機の無頼や無頼改。もしくは雷光位だろう。

大した戦力では無いが念のために戦力の補充はさせない。

キョウトからの物資提供が無いから当然日本解放戦線は焦る。

何とかキョウトの感心を引くために様々な破壊活動をするだろうから、面倒くさいので無頼改の引き渡しを許した。

藤堂や四聖剣に取りに来させるよう誘導する。

藤堂達が離れたら直ぐに成田連山の日本解放戦線の本拠地を叩く。

原作ではコーネリアが攻めたが、クロヴィスでも勝てる位の戦力差がある。

そこに旧式とは言え、ブリタニア軍にとっては新型の紅蓮式式に乗った俺の私兵達を参加させる。

更に、作戦の指揮はクロヴィスではなく俺が取る。

これで勝ち揺るがない。

結構粘ったが、結局は陥落。

原作とは違い、藤堂達がいなかったのが大きかったのか、これと言ったイレギュラーも無く終了。

片瀬小将など幹部は自決。

藤堂達は無頼改の受け取りの際に殺した。

何か人間とは思えない回避力などを見せてくれたらしいけど、長くは続かなく死んだ。

日本解放戦線が壊滅したと報じるとレジスタンス達は希望を失ったのか、レジスタンスを辞めて商社に就職するものが多くなった。

それでも辞めない者もいるが、他のイレブンから密告され捕まってい

く。大多数のイレブン達にとってはレジスタンスなんて邪魔な存在ではない。

せつかく衛星エリアに昇格出来そうなのに邪魔をするのだ。

別に生活に困っていないし、名誉ブリタリア人になれば社会や福祉サービスも受けれるようにしたので、ほとんどのイレブンはこぞつてなりたがった。

そのせいでレジスタンス達は非難されたり、密告されるようになってしまったからゲッターにも居場所が無い。

だからレジスタンス達は自然に減っていった。

よし、これで後方は確保した。
次は本国だ。

じゅうなな

次は本国へと移動だ。

クロヴィスと一緒に本国へと帰郷。

目的はユーフェミアに会うため。

ユーフェミアに会うのはそんなに難しく無い。

ユーフェミアは現在、本国で学生をやっている。

原作と違い、クロヴィスは死んでないからユーフェミアは学生を続けている。

そこに兄が会いたがっていると言えば、ユーフェミアなら喜んで会うだろう。

現にメールをしたら直ぐに帰ってきて、今は帝都ペンドラゴにてユーフェミアを待っている。

しばらく待っていると

「クロヴィスお兄様！」

何が嬉しいのかテンション高めだ。

俺はクロヴィスの後ろでサングラスを掛けて下がっている。一応名目は護衛だからな。

ユーフェミアにも護衛が付いている。あの原作の女だ。

「申し訳ありませんお兄様…。遅れてしまっ…。」

ユーフェミアは遅刻を詫びている。

「いや、いいよ。こちらから会いたいと頼んだのだから。」

クロヴィスが気にしてないと伝えると

「ありがとうございます。」

ユーフェミアは機嫌が直ったのか嬉しそうだ。

「それで、お話とは何ですか？ メールでは会わせたい人がいると書いてありましたか。」

「おお、そうだね。では早速。」

クロヴィスが俺を見たので俺はクロヴィスの隣に立つ。

ユーフェミアは気づいたのかじっと見てくる。

「も、もしかして……ルルーシュ……？」

サングラスを外してユーフェミアを見る。

ユーフェミアの顔に喜びが広がっていき

「やっぱりルルーシュだ！」

抱きついて来た。

突然の再開に感極まったのか泣いている。

護衛はどうしたら良いか分からずオロオロしてる。

ユーフェミアはしばらく泣き、ようやく俺から離れた。

「ごめんなさいルルーシュ。まさか生きているとは思わなかったからつい嬉しくて……」

笑顔で謝る。

本当に嬉しそうだな。

俺にはお前との記憶は嫌々おままごとをしたり、ナナリーと俺を取り合って俺の両手を引っ張り合いやがって、腕が折れるかと思ったことなど、ロクな思い出が無いぞ。

まあいい、これからが大切なのだ。

ギアスを発動させ

『ユフィ、俺の命令に従ってくれ。』

ユーフェミアにかける。

「うん、分かった。」

ユーフェミアはいきなりの命令を受諾した。護衛は混乱している。それはそうだろう。

いきなり主が久しぶりに合った兄弟の無礼な態度に反抗するのでは無く、従うのだから。

一応護衛にもギアスを掛けて黙らせる。

これで新たな駒の完成だ。

次はコーネリアだ。

コーネリアは現在、新たなエリアを完成させて仕事に一段落ついた筈。

そこにユーフェミアとクロヴィスから大事な話があると伝える。

クロヴィスだけでは会ってくれないかも知れないが、ユーフェミアも一緒なら会うだろう。

アイツはユーフェミアを溺愛している。と言うか兄妹の情に弱い。

しばらく帝都でコーネリアの帰還を待つ。

その内に会えるだけの皇族と会ってギアスをかける。

いくら有象無象のモブ達でも一応皇族。

何らかの役に立つ。

とりあえず一番上のオデュッセウスに会つとくか。

何せこつちにはクロヴィスとユーフェミアがいる。会う口実なんか幾らでも作れる。

とりあえず帝都にいる皇族に片っ端から会いギアスをかけた。

それが一段落ついた頃、コーネリアが帰って来た。

やはりユーフェミアをダシにしたのが効いたのか直ぐに会ってくれた。

念のため、ユーフェミアの私室に呼んで防御を固めといた。
もし上手くいかなかった場合に制圧できるように私兵達を潜ませる。
部屋には俺達その他、コーネリアと騎士のダールトン、ギルフォード
がいる。

「久しいなクロヴィス。変わっていないか？」

「そうだ、エリア１１の統治は順調らしいな。」

「とりあえずクロヴィスに話しかけてきたコーネリア。
後ろの俺が気になっているらしいが。」

「ありがとうございます。姉上もお元気そうで何よりです。
エリア１８成立おめでとうございます。」

「コーネリアはクロヴィスの言葉に頷くだけ。」

そしてユーフェミアを見て

「ユフィ、お前も元気そうだな。学校は楽しいか？」

明らかに口調が違うコーネリア。兄妹差別し過ぎだろ。

「はい、コウお姉様。学校は凄く楽しいです。」

笑顔のユーフェミアにコーネリアは嬉しそうだ。

その後ろのダールトンやギルフォードも嬉しそうにしている。

「さて、ユフィ。大事な用とは何だ？」

クロヴィスの後ろにいるその男のことか？」

そろそろ出番か。

ユーフェミアの時のようにクロヴィスの隣に立つ。

コーネリアは未だに分からないようだ。

やはりユーフェミアの観察眼は異常だったんだな。
少し安心。

そしてサングラスを外してコーネリアを見る。

コーネリアも誰か分かったのか目を見開く。

「ま、まさか……。ルルーシュ……なのか？」

俺は笑顔で

「はい、お久しぶりです姉上。」

ルルーシュ・ヴィ・ブリタニアです。」

多少跪き、答える。

後ろにいる二人も啞然としている。

死んだ筈の人間が生きてりやそういう反応をするだろう。

しばらく呆然としていたコーネリアは涙を流し。

「そうか……生きていたか…ルルーシュ。」

抱きついた。

コーフェミアと同じリアクションだな。

さすが姉妹。

コーフェミアと違って直ぐに離れたコーネリア。

若干顔が赤い。

どうやら泣きついたのが少し恥ずかしかったようだ。

俺はその涙を手で拭ってやり、コーネリアの目を見る。

『姉上、私の命令に従ってください。』

ギアスをかけて支配した。

「分かった。お前の命令に従おう。」

いきなりのコーネリアの発言に戸惑う騎士の二人。

「姫様？ 突然如何なされたのですか？！」

ギルフォードがコーネリアに向かい、叫ぶ。

一方、ダールトンは落ち着いている。

どうせ子供みたいな遊びだろうと思っているようだ。

むしろ慌てふためくギルフォードを笑いながら見ている。

そんな二人にもギアスをかけて黙らせる。

よし、これで前提条件は整った。

後は仕上げだ。

じゅうはち

とうとう最後の大詰めだ。

コイツさえクリアすれば後は何とでもなる。

シュナイゼル。

原作においてある意味シャルルより厄介。

頭は多分ルルーシュより良いだろうし、皇帝に変わって政務をこな
し、実戦にも慣れている。

コイツこそ最強だろ？

だからこそ、欲しい。

シュナイゼルに会うためだけに、今回皇族達を支配下においたのだ
から。

中でもシュナイゼルに対しても発言権はあるだろう、コーネリアと
最近ノリに乗っているクロヴィスの二名の連名でクロヴィスに「重
要事項がある」と伝える。

そうすればいくら皇帝最有力と言われるシュナイゼルでも無碍には
断れない。

何時も金魚のフンみたいにくっついてるカノンと一緒にシュナイゼ
ルは執務室にいた。

何とかアポを取れた。

兄弟で話すのにアポが必要ってスゲエな。

他の皇族は兄弟なら一応すぐ会ってくれたぞ？

まあ、シュナイゼルだもんね。

本来、長男のオデュッセウスがやる筈の皇帝の政務を、ほぼ全部こなししているシュナイゼルにはマジで尊敬します。信用はしないけど。

シュナイゼルはいつもの微笑みを絶やさず

「どうしたんだい？コーネリア、クロヴィス。

緊急の用事とは？」

シュナイゼルは尋ねる。

原作の時から思っていたけど、お前それ以外の表情持ってたの？

感情無い設定だけど変に人間的だし、隣のオカマと親友っぽいし。

もしかしてコイツもオカマだったりして？

うわぁ、ちよつと似合いそう。コイツ美形だし。

ちよつとガタイ良いのがマイナスだけど。

そんな感じにどうでも良いことを考えている俺はシュナイゼルの前に立ち、サングラスを取る。

流石に俺は予想外だったのか微つつつ妙に目を見開く。

ポーカーフェイスやらせたら多分俺より上手い。

人生経験では俺の方が何倍も上なのにorz

「驚いたな。生きていたんだね？ ルルーシュ。」

あれがお前の驚いた表情ならお前の表情筋はほとんど死んでるな。

「それで、コレが重要事項かな？」

確かにルルーシュが生きていたことは嬉しかったが、私に直接会うほどの重要事項かな？」

分かりにくい表情だが察するに、この程度で私の時間を割いたのかな？ だろう。

とりあえずコイツには感動の再開は無意味なので

『俺の命令に従え』

簡潔にギアスをかける。

「何なりとお命じください。」

立ち上がり頭を下げるシュナイゼル。

多分頭を下げるなんて、この年になってからは一度もしていないだろう。

現にカノンは信じられない顔でシュナイゼルを見る。

「殿下……？」

コイツも使えるのでギアスをかけて従わせる。

これで山場は超えた。
後は最後の大掃除だ。

アーカーシャの剣に入り、シャルルを殺す。

今のシャルルならただのギアスユーザーだ。

ギアスで支配した兵士達にバイザーをかけさせ、突っ込ませて射殺させた。

まだコードを持って無いから思考エレベーターの中には入れなかったようだ。

ちなみに、シャルルは原作でお馴染みの変な遺跡で体育座りをしていたらしい。

是非見たかった。

シャルルの落ち込んだ体育座りなんて滅多に見れるものじゃないから残念だ。

その後、アーカーシャの剣の入り口を爆破。封印した。

これで厄介な邪魔者は居なくなった。
後は仕上げだ。

じゅうきゅう

シャルルを下し。

シュナイゼルを皇帝に据え置き、皇帝就任宣言をさせる。

ナイトオブラウンズは逃亡した。

ビスマルクが帝都にいなかったのが痛かった。

他のラウンズもEUに行っていたのでギアスはかけられなかった。

しかし他には大して混乱は無かった。

帝都にいる皇族はみんな支配したし、上級将校達にもギアスをかけておいたので下の兵士達の混乱も最低限に抑えた。

各エリアの総督達には就任前に帝都に呼び出し、ギアスをかけたので問題無い。

これでブリタニアを牛耳れた。

シュナイゼルにはギアスをかけてあるので実質俺の国だ。

早速動いた。

というより命令しただけだが。

先ずは侵略主義を止める。

各戦線に停戦命令を出し、戦争を中止させる。

どの戦線も此方が優位だったので此方優位の停戦条約を結ばせ終わらせる。

次にエリア解放だ。

時代遅れの植民地支配は終わり。

エリアは順次独立させる。

その際にも此方が主導権を取り、不平等条約を結ばせて国政に影響を残す。

ちなみに、各エリアに治安維持や防衛を理由に軍は残す。

こうしておけば常に此方の機嫌を損なわないように考えるだろう。現実の日本とアメリカの関係のように。

安全保障条約のような条約を結ばせ、その国の軍を縮小させる。

しかし、全く無いと困るので自衛隊のような専守防衛組織を作らせ、最低限は自分達で守らせる。

中華連邦やEUなどは警戒はするが手は出さない。

今では独立した国が間にあるから緩衝地帯として役立つてくれている。

それに、この世界のミサイルはお粗末だからあんまり警戒しなくても良い。

此方は大陸間弾道ミサイルを完成させたので直ぐに報復してやる。弾頭はフレリアだから効くだろう。

最も、どちらも公開していないから抑止力にはならないが。

それに、勝手に崩壊してくれるだろう。

今まではブリタニアという巨大な敵がいたから纏まったが、多民族国家なんてそうそう纏まるものではない。

オマケに国同士の連合なんて脆いもんだ。

ブリタニアが侵略主義を止めたから中華連邦として協力する必要がぐっと薄まる。

中華連邦の宗主は天子だが未だにガキ。

補佐官の星刻は病気で長くない。

大カノン官達は自己保身には長けているだろうが、命を懸けてまで国

を守る気は無いだろう。

と言っても、現状を維持されても困るのでインド軍区に独立支援をする。

他にも、中華連邦には従えないという国に支援して連邦を混乱させる。

EUは現在、何とか上手くいつているようだ。

軍事同盟から経済的な同盟に変えて耐えている。

中華連邦と違い、同じ白人同士だから混乱はあっても中華連邦ほど大きくない。

しかし、国によって違う所得間の格差で混乱は起きているが。

現実とは違い、経済がヤバイ国もEUに入っているからEU全体に負担が掛かっている。

経済がヤバイ国を何とかEUから追い出したがっているが、追い出される国にとっては堪ったもんじゃ無いから必死に食らいついている。

このように、諸外国とは上手く距離を保ち優位に立っている。

商社はそのまま旧エリアに残るから市場も独占できる。

本社はブリタニアに移転したが。

残る敵は最早最後のギアスユーザー、ビスマルク率いるナイトオブ
ラウンズだけだ。

あいつらのナイトメアは飛行ユニットも持っていないグロースター
の発展版のような機体だ。

ビスマルクのギアスは怖いが問題無い。

にじゅう（終）

そういえばスザク出て来ないな。

まあ、ランスロットが無いスザクに価値は無い。

遂に最終決戦が来た。

ラウンズは中華連邦やEUの支援を受けたのか、それなりの義勇軍を引き連れて攻めて来た。

しかし、この時期EUは自国生産のナイトメアを持っていなかった
ので、ラウンズ以外はグラスゴーのコピーや少数のサザerland、
もしくはガン・ルウに乗ってやって来た。

はつきり言って雑魚だ。

此方は遂に紅蓮聖天八極式が完成して空からの襲撃だ。

しかし、やはりビスマルクの未来線を読むギアスは怖いので仕掛け
もした。

敵がわざわざ海を渡り、陸に着くまで待った。

海を進む船を攻撃しても良かったが、確実に殺した証拠が欲しかったので陸まで待った。

そして、陣形を組んだ辺りで仕掛ける。

ビスマルクが義勇軍に向かって鼓舞しているのでチャンスと思い、
ゲフィオンデイスターバーを起動させる。

この世界では実戦に使われる所か、存在すら知られてない代物だから敵はナイトメアが動かないので大混乱だ。

そこにハドロン砲を撃ち込んで全機撃破。

かるうじて生き残っていた人間は紅蓮で撃ち殺す。

なんか……紅蓮の活躍はこれだけかよ…

あんだだけ時間を掛けた機体は主にシュナイゼルに従おうとしない反乱軍の壊滅など、対した戦闘を経験しないままだった。

そりゃあそうか。

俺はルルーシュと違って全面对決は避けてギアスに頼ったからなあ。哀れ紅蓮は戦いと呼べる戦いをしないまま、ブリタニアの正式機体となった。

戦闘は終わり、ビスマルクの死亡を確認した後、一応中華連邦やEUに抗議。

反乱軍に手助けしたとして経済制裁を発動。

ブリタニアとその同盟国との間の物流は激減した。

ただでさえグラグラだった中華連邦はさらにグラつき。

遂にインドが離反した。

それに続くように、次々と各国が中華連邦から脱退してブリタニアと同盟を結んだ。

勿論、同盟を組んだ国には経済支援と治安維持や侵略を防ぐ名目で軍隊を派遣。

土地を租借して軍事基地を建造して睨みを効かせる。

中華連邦は今やかつての大国では無くなり、現在の中国位にまで小さくなった。

これで完全勝利。

政務はシュナイゼルに任せれば良いし、商社は今まで通り在庫の補充で良い。

俺が死ねば終わるけど知ったことが。

俺はそこらのオリ主とは違い自分が死んだ後なんて気にしない。
自分さえ幸せになればいいのだ。

さあて、ようやく暇になったんだから女遊び位するか、前の世界じや立場的にロクに遊べ無かったんだ。

この世界では好き勝手に遊ぼう。

俺は世間的には誰も知らない。

それに、まだ俺は高校生なのだからな。

にじゅう（終）（後書き）

沢山の感想ありがとうございました。

アニメの第一期で終わるという短さでしたが、最後までご覧くださった皆様には感謝の念で一杯です。

ちなみに次回作ですが、日本魔改造に決定致しました。

沢山のアンケート誠にありがとうございました。

現在執筆中ですが、今作のようにとんでもない展開になってしまってます。

とりあえずもう一作品の「ネギ？スプリングフィールド」が終わったら「小説家になろう」に投稿予定です。

ある意味今作以上にご都合主義に固まっていますので、リアルさを求める方にはキツイかも知れませんが見てやってください。

浦波。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1415p/>

コードギアス 非道なルルーシュ

2011年7月19日21時26分発行